

Mini-WAN

国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所発行(No.213)

三河港湾事務所だより

2025年6月号

「みなとの見学」を実施

4月18日（金）、鈴木自動車運送（株）の新入社員3名が三河港の見学をしました。みなとの見学では、当事務所の業務艇「しおさい」にて神野地区から、当事務所で事業を実施中の防波堤（北）をまわり、田原地区、明海地区を見学していただきました。

当日の天気は少し霞がかっていましたが、PCC船（自動車運搬船）やコンテナ船など多くの船が係留しており、また風もなく波も穏やかで、途中、海面に顔を出すスナメリが見られるなど、とてもよい見学日和でした。見学を通して、三河港の周辺の施設や特徴、みなとの役割などについて学んでいただきました。



三河港湾事務所では、「みなとの見学」や「出前授業」を受け付けています。

お問い合わせ連絡先

電話番号：0532-32-3251

担当：鈴木、六ツ名（企画調整課）



レポインターナショナル愛知工場の竣工式に渡邊所長が参列



4月18日（金）、愛知県田原市に「レポインターナショナル」のSAFとバイオディーゼル燃料を生産する工場が完成し、竣工式に所長の渡邊が参列しました。

同社は「廃食用油の地産地消を進める」とし、生産した燃料は中部国際空港や近隣の自動車工場への納入を目指すとのこと。三河地方は自動車産業が集積しているため、自動車燃料としても需用が見込める。原料は、外食店や食品工場から集めた廃食用油。

～未来の空を支える、やさしい燃料～

最近、ニュースや広報誌などで「SAF（サフ）」という言葉を見かけることが増えてきました。

でも、「SAFって何？」と思われた方も多いのではないのでしょうか。

今回は、環境にも未来にもやさしいこの「SAF」についてご紹介します。

SAFとは「化石燃料以外を燃料とする持続可能な航空燃料」のこと！

SAFは英語で「Sustainable Aviation Fuel」の略。日本語では、

「持続可能な航空燃料」と訳されます。

飛行機を飛ばすための新しいタイプの燃料で、従来の石油由来の燃料と比べて、

CO₂（二酸化炭素）の排出を大きく減らすことができるのが特徴です。



原料は、なんと「てんぷら油」！？

SAFは、使い終わった食用油（例えば家庭や飲食店から出た廃油）などの再生可能資源から作られています。

つまり、私たちの日常の『いらないもの』が、空を飛ぶ燃料に生まれ変わるというわけです。

港から空へ。港湾の役割とは？

実は、こうしたSAFを支える取り組みは港でも始まっています。

たとえば、港から飛行機への燃料輸送やSAFの大規模生産を見据え、港が物流のハブ、脱炭素化の拠点として注目されているのです。

港湾においても今後、持続可能な社会づくりに向けた役割がますます大きくなっていくことでしょう。

三河港湾事務所ホームページ <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp/>

三河港湾事務所公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp/>



みかわこうわん

三河港湾

検索



国土交通省 中部地方整備局

三河港湾事務所

公式Facebookページ





火力発電のこれから 碧南火力発電所を見学しました！



愛知県碧南市にある「碧南火力発電所」の見学を行いました。
ここは、日本でも最大級の火力発電所の一つで、石炭を燃やして電気を作る施設です。



発電所は衣浦港にあり、海外からの燃料を船で受け入れています。
「港」と「電気」が繋がっている場所なんですね。

今回の見学では、実際の設備を見ながら、

- ✓発電のしくみ
- ✓燃料の流れ
- ✓安全対策や環境への配慮

について詳しく学ぶことができました。

🔍電気って、どうやってつくってるの？

火力発電では、石炭などを燃やして発生する熱で水を温め、蒸気を使ってタービン（発電機）を回します。そのタービンが電気をつくる『エンジン』のような役割をしています。

🌍地球にやさしい火力発電を目指して

火力発電はたくさん電気をつくれる反面、地球温暖化の原因にもなる、二酸化炭素(CO₂)が出ます。

そこで最近注目されているのが、アンモニアです。

💡アンモニアってすごい！

アンモニアは、水素と窒素からできていて、燃やしてもCO₂を出さないのが大きな特徴です。碧南火力発電所では、石炭とアンモニアを混ぜて燃やすことで、少しずつ環境への負担を減らす取り組みが始まっています。

🌟見学を終えて

碧南火力発電所で昨年行われた試験では3か月で3万トンのアンモニアが使われました。今後取り組みが進むと、年間50万トン※のアンモニアが使われると聞きました。

アンモニアは今後ますます重要な貨物となっていくことが予想されます。

将来、アンモニア使用量が増えていくことが見込まれる衣浦港において、必要な施設等について、私たちも考えていきたいです。

※碧南火力4号機でアンモニア転換率20%の商用運転を行った場合の消費量



亀崎潮干祭に行ってきました！



5月3日（土）・4日（日）、愛知県半田市で開催された「亀崎潮干祭（しおひまつり）」を訪れました。
この祭りは、約300年の歴史を持ち、ユネスコ無形文化遺産・国の重要無形民俗文化財に指定されている、衣浦港沿岸に息づく伝統文化の一つです。



砂浜に並ぶ5輦の山車。
潮風の中、観客から歓声が上がります。

今年は二日間とも晴天に恵まれ、多くの観光客が門前町に立ち並び露店や縁日を楽しんでいました。

この祭りの最大の見どころは、海辺の干潮を利用して山車（やまぐるま）を砂浜へ曳き出す「海浜曳き下ろし」。全国的にも非常に珍しく、観る人の心をつかみます。

約1時間ほどかけて5輦の山車を各組の男衆が海浜の波打ち際まで曳き下ろし、砂浜に沿って整列する様には、深い感動を覚えました。



各組の山車の背面には豪華な装飾が施され、間近で見ると迫力満点です。

山車の背面には、それぞれの組が誇る彫刻や幕が施されており、細部まで手の込んだ美しさがありました。地域の皆さんの誇りと伝統が息づいていることを、肌で感じることができました。

衣浦港にほど近い亀崎の町で、港と共に生きる文化の力強さ、そして地域の絆を再認識する一日となりました。

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間※ 9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)
※一部の地域を除きます。

国土交通省
中部地方整備局



三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL 0532-32-3251

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL 0569-21-2311

<http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp/>